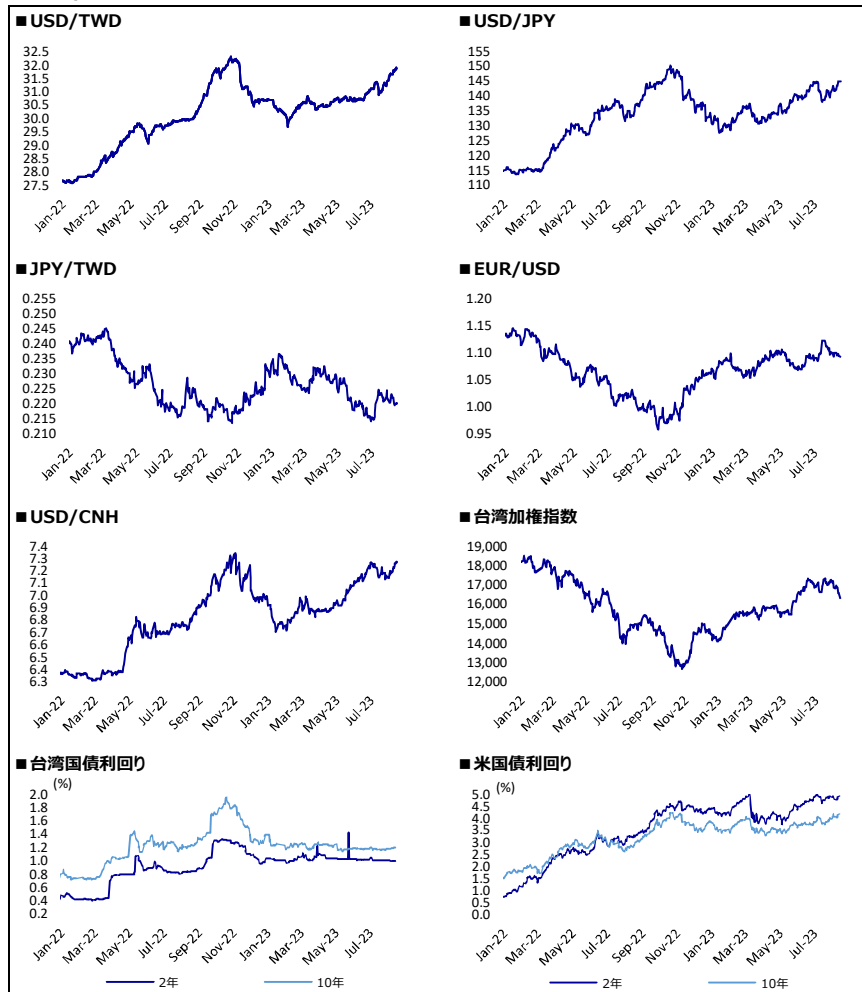


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初8/7は前週末の米雇用統計を受けてドルが弱含んだ影響から31.650とギャップダウンしてオープンしたものの、すぐに戻し、一時31.7台にのせたが、台湾株が上昇したことを受け、31.67付近で推移。8/8は配当金の海外への送金等による外国人投資家の台湾ドル売りに加え、急落した台湾株や中国の貿易統計が輸出入ともに予想以上に減少したことを受け、台湾ドル安が進み、31.8台に乗せた。8/9は31.870まで上昇したものの台湾株の反発や、輸出企業のドル売りもあり、31.80付近まで反落。加えて人民元が反発したこともあり、31.7台半ばまで下落。8/10は米7月CPIの発表を控えていることもあり、レンジで推移。8/11は米7月CPIの結果を受けてアジア通貨が軟調に推移する中、台湾ドルも売りが優勢に。31.8台前半まで上昇したが、上値を押さえる動きもあり、最終的には先週比0.3%ドル高台湾ドル安の31.798で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は327.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/7は141.85でオープン後、日銀7月会合の「主な意見」が発表され、日銀の政策修正期待が高まり、141.52まで下落。しかし、その後は株価の上昇と共にリスクセンチメントの改善から142円台半ばまで上昇。8/8は軟調な本邦6月毎月勤労統計を受け、日銀の金融緩和継続期待が高まる中、中国の貿易統計の結果を受けてリスク回避のドル買いもあり、143円台に乗せた。その後はもみ合うものの、米金利が上昇に転じる流れに合わせて、143円台半ばに上昇。8/9は米CPIの発表を翌日に控えて様子見相場となっていたが、前日下落した欧州株が反発し、リスクオフムードが後退し、米CPIの上昇への警戒感もあり、143円台後半まで上昇。8/10は注目の米7月CPIが発表され、総合、コアCPIともに市場予想を下回ったことから9月の追加利上げ観測が後退し、下落で反応。しかし、総合CPI(前年比)は前月より上昇しており、米政策金利の高止まりが意識され、ドル売りは続かず、米金利の上昇と共にドル買いが優勢となり、じりじりと144円台後半まで上昇。8/11は米7月PPIが市場予想を上回るとドル買い優勢の展開となり一時145円をタッチするも上げとはならず、最終的に先週比2.3%ドル高円安の144.96で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.500-32.100
今週は上昇を見込む。米CPI、PPIの結果を受けて、米金利の高止まりが意識されており、ドルが買われやすいであろう。ただし、節目の32を前に、上値は重いであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：144.00-146.00
今週は底堅く推移すると見込む。今週は日本はお盆休み、海外も休暇シーズンに入中、先週は米CPIが発表され、イベントも経過した後であり、改めて日米金利差が意識された底堅い展開となるであろう。ただし、為替介入が警戒される145円台では上値は重い展開が続くであろう

今週の予定

8/14 (MON)	
8/15 (TUE)	米7月小売売上高、米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数
8/16 (WED)	米7月鉱工業生産、FOMC議事要旨(7月会合分)
8/17 (THU)	米8月フィラデルフィア連銀景況指数
8/18 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。